

二次元ぷち文庫

退魔拳士

ORIGINAL ILLUSTRATION
FEILAN

ファイブ 外伝

少女剣士
陥落編

蒼井村正

表紙イラスト：ピエール☆よしお




試し読み版

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『退魔拳士フェイラン外伝 少女剣士陥落編』
に基づいて作成しております。

※本作は二次元ドリームノベルズ『退魔拳士フェイラン』（キルタイムコミュニケーション刊）とともにお読みいただけますと、よりお楽しみいただけます。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



退魔拳士
KUNG-FU EXORCIST
FEILAN
ファイラン 外伝
少女剣士
陥落編

蒼井村正

表紙 / ピエール☆よしお

二次元ぷち文庫

登場人物紹介

Characters

たけみやゆう

武宮優

聖桃学園高等部三年生の退魔剣士。ポニーテールがよく似合う、颯爽とした雰囲気を持った少女。

くろみこ

黒巫女

漆黒の巫女装束に身を包んだ、強大な妖力を持つ謎の少女。

えんきぼう

猿鬼坊

黒巫女の手下。ヒヒを思わせる顔立ちをした小柄な老僧。

強い照明に照らされたただっ広い空間の片隅で、少女は犯されていた。

少年のようなスレンダー体型の肢体を四つん這いに這わされ、前後から觸られている。汗に濡れ光る裸身に身に着けているのは、淡いブルーのショーツのみ。少女を辱めているのは、浅黒い肌をした二人の男だった。

過剰なまでに筋肉質なたくましい裸身には一本の体毛もなく、オイルでも塗り込んだかのようなぬめった光沢を放っている。端正に整ってはいるが、下品な印象を与える顔立ちに卑猥な笑みを浮かべ、二人の男は少女の身体を好き放題に觸り回していた。

人のような姿をしてはいるが、男どもは人にあらず。

快樂の波動を糧とする異界の生物、淫魔である。

男の姿をした二匹の下級淫魔は、いままさに「食事」の最中であつた。

過剰なまでに怒張した牡器官で、ポニーテールがよく似合う少女の口と性器を突きまくり、望まぬ女悦を発生させて吸収している。

ショーツを大きくずらされて露わにされた秘裂では、淫蜜に濡れた赤黒い勃起がフルストロークのピストン運動を繰り返していた。革製の開口具を装着された口も、生臭いペニスで喉の奥まで突きまくられ掻き回されていた。

「なかなかいい濡れっ振りじゃねえか。貧乳のわりにオマ○コは上物だな」

「お口の方もよだれダラダラで、舌が痙攣して気持ちいいぜ」

少女の羞恥と屈辱を煽る声をかけながら、人型の下級淫魔は自慢の肉棒で責め立てる。交互に突き込みを受けるたびに、少女の口と股間からグチュグチュと卑猥な粘着音が上がり、苦しげな呻きとともにスリムな裸身が強張り痙攣する。

固く閉じられた目元からは、悔し涙が溢れ出して頬を伝っていた。

(くそう……こんな、こんなザコ淫魔に……ッ！)

津波のように押し寄せてくる快感に抗い、屈辱感に身を震わせている少女の名は、武宮優。全寮制の女子校である私立聖桃学園せいとうがくえんの三年生で、特別風紀委員、通称「特風」のリーダーをつとめている。

キリリと凛々しく整った美貌の持ち主で、剣道部の主将も兼任していた。口調は男っぽく荒いが、快活な姉御肌の性格で、下級生たちからは絶大な人気を得ている。

優が長を務める特別風紀委員は、表向きは学園の風紀維持と警備を受け持つ自治組織である。しかし、本当の任務は学園を狙ってくる淫魔どもから生徒と学園を守ることなのだ。聖桃学園はこの世と淫魔界を繋ぐ門である淫獄門を封じる形で建てられており、敷地や校舎の配置は巨大な立体魔法陣の構成を持っている。そこに選りすぐりの少女たちが集うことで、彼女らの聖なる気を集束し、封印を維持強化しているのだ。

この大胆な試みが功を奏し、淫獄門は数十年にわたって完璧に封じられてきたのである。二年生の時に学園に編入してきた優は、神木から削り出した木刀を武器に、先祖伝来の

退魔剣術「武宮流妖斬剣」を振るって幾多の淫魔どもを葬ってきたのである。

そんな彼女であったが、淫魔どもの卑劣きわまりない罠に落ち、抵抗もむなしく囚われの身になっていた。

淫魔の手に落ちた女の運命は悲壯の極みである。ひたすらに戮られ、彼らのエネルギー源である喜悅の波動を搾り出されるのだ。

特に、並の少女よりも遥かに強い生気の持ち主である退魔剣士は、淫魔にとって最上級に美味な獲物なのである。

そんな極上少女の「下ごしらえ」を命じられた二匹の下級淫魔は、嬉々として陵辱を行っていた。

まず手始めに、カメラ付触手で撮影されながら、ショーツ越しにじつくりと股間を戮られ、股布にぐしよぐしよの濡れ染みができてしまうまで辱められた。

執拗な愛撫によって硬く閉じ合わされていた性器が意志に反して濡れ開いてしまうと、下級淫魔どもは少女剣士の処女を容赦なく奪い、本格的な陵辱を開始したのである。

「こいつ、嫌がりながらも感じてやがるぜ。オマ○コの濡れ肉がぐねぐねうねりながらチンポにまとわりついてきやがる」

ヴァギナに剛直を突き入れている男が下卑た声を上げつつ腰を使う。日頃の鍛錬によってプリッと引き締まった少女剣士の尻たぶをガッチリと鷲掴みにして、下級淫魔はリズム

カルに突き込みを続けていた。

尻たぶが大きく割り開かれているため、ミルクティー色をした肛門と、抽送のたびにバラの花弁のような陰唇をまくり返らせる結合部が丸見えの状態になっていた。

少女のもっとも恥ずかしい部分を存分に鑑賞しつつ、自慢のイチモツで敏感な粘膜穴を力強く掘り返し、発生する喜悦のエネルギーを吸収してゆく。

男の腰が引かれてゆくと、パツクリと割り開かれた秘裂の狭間から赤黒い牡器官が姿を現し、肉棒に密着したフレッシュピンクの内壁までもが引きずり出されてくる。

ペニスの胴も、優の陰唇も、異常分泌された愛液で濡れまみれ、ぬめった光沢を放っていた。亀頭が抜け落ちる寸前まで引かれた腰が、グチュンツ！ と音を立てて深々と突き込まれた。

「んんツ！ くふううううーんツ!!」

内臓が根こそぎ揺るがされるような激しい突き上げを受けて少女剣士のスリムな裸身が反り返り、ポニーテールの黒髪が振り乱される。

絶叫しようにも、彼女の口も牡臭いペニスによつて塞がれているため、くぐもつた呻き声しか出せない。

「もうイっちゃまいそうなんだろ？ ケツの穴までヒクヒクさせやがって！ とんだ淫乱剣士様だなあ！」

あざけりの声をかけ、下級淫魔はハードな腰使いで少女剣士を犯す。

汗にぬめ光る少女のヒップと、腹筋の凹凸を浮き出させた男の下腹が激しくぶつかり合う。そのたびに、パンパンという打音が卑猥に響き、搔き出された愛液の雫が甘酸っぱい媚香を漂わせて舞い散った。

フルストロークの抜き挿しのたびに、張り出した亀頭が膣壁を容赦なく搔き擦り、つい数十分前までは処女だった肉体に女の愉悦を刻み込んでゆく。

腰の奥が狂おしく疼き、重力の感覚が失せてくる。ひと突きされるごとに子宮が白熱し、甘い匂いのする汗粒が噴き出して裸身を濡らした。

（ちくしよう！ こんな奴に……感じさせられて……ダメだつ！ 感じちゃ……）

押し寄せてくる喜悦の波を必死に振り払おうとする優であったが、巧みに蠢く牡器官は的確に急所を責め立て、少女の意識をもグチャグチャに搔き回す。

（ダメ……ダメだ……意識が……身体が飛んじまうッ！）

四つん這い状態の裸身がブルブルと震え始めた。

「気持ち良すぎて身体の震えが止まらねえみたいだな。今までおまえにやられてきた仲間の仇、死ぬほど犯しまくってやるぜ！」

下級淫魔は容赦のない腰使いで憎き特風リーダーを責め立てる。

ゴリッ、ゴリッ、ゴリッ……硬く張り詰めた亀頭冠がリング状に柔褻を連ねた膣壁を搔

「派手なイキっぷりじゃのう。どれ、ワシは尻を味見してみるかな」

しわがれた声で言いつつ、猿鬼坊は乱れ狂っている少女の背後へと回り込んだ。

優の尻は、さんざん引つ張られずらされたせいで布地が伸びきり弛んだ淡いブルーのシヨーツにかるうじて守られている。

「小振りだが良い尻じゃ」

枯れ枝のような指が、シヨーツのウエスト部分を掴んでグイッと引つ張り上げ、伸びきった布地を尻の谷間に食い込ませる。

日々の鍛錬によって見事に引き締まり鍛え上げられた、プリッと丸みの強い尻たぶが露わになった。女性らしい丸みを見せながらも、若々しい躍動感に溢れた美尻だ。

黒巫女の指で性器を責められるたびに、臀筋がキュツ、キュンと引き締まり、甘い発情臭のする汗が滑らかな尻肌を濡らす。

「朝露に濡れた水蜜桃のようじゃのう」

卑猥な声音で言ったヒヒ面の妖怪僧は、尻の丸みに頬ずりし、赤黒い舌を舌がぬるぬると這い回らせて汗粒を舐め取ってゆく。

「ふわあ！ あッ、あッ」

新たな刺激を送り込まれ、小振りなヒップが震える。

巨大軟体動物が尻を這っているような感触が、一瞬後には鳥肌立つような快感に変じて

裸身をざわめかせた。

媚毒性液に侵された身体が、ありとあらゆる刺激を快感に変換しているのだ。

「なかなか美味な尻じゃ。どおれ、尻の穴の方はどうかな？」

引き締まった尻たぶがグイッと割り開かれ、谷底のすぼまりまで露わにされる。

「ほお、これはよく締っておるわ。菊座も程良く色づいておる」

汗と愛液に濡れまみれて悶える尻の谷間に、妖怪僧の顔がめり込んだ。

レロッ、レロッ……レロオッ。

放射状の小皺を引き結んだ肛門に、生暖かく濡れた舌が這わされる。皺の一本一本が舌先でなぞられ、固くすぼまった中心をチロチロと舐め弾かれた。

「くッ！ やっ！ うああああ……！」

背筋が総毛立つようなおぞましさと同時に、信じられないほど甘美なものが身体の芯を走り抜け、汗ばんだ裸身をガクガクとわななかせた。

「先輩ったら、お尻の穴を舐められて感じちゃってるんですね。オマ○コの震え方が変わりましたよ。凄いい締めつけ……」

耳の奥でフェイランの声が響く。淫夢に囚われた心が、もつとも恥ずかしい言葉を脳内で紡ぎ出しているのだ。

尻の穴は熱くざらついた舌で執拗に舐めしゃぶられ、膣内ではカギ型に曲げられた指が

内壁を搔き廻っている。

（こんな、こんなっ！ 頭……グチャグチャになるっ!!）

ヴァギナと肛門から送り込まれる魔悦は少女の意識を激しく搔き乱し、まともな思考を許してくれない。

「もっと奥まで味見してやろう」

括約筋の緊張が弛んだわずかな隙を逃さず、妖怪僧の舌が肛門にヌルリと潜り込んだ。人のものでは決して届かぬ深みにまで侵入した舌が、直腸壁をゾロリと舐め上げた。

「うひっ！」

裏返った声を上げた優の身体が緊張し、膣内の指と肛門に啜え込んだ舌をきつく締めつけてしまう。淫魔の精で発情した身体の芯を疼きの電流が駆けめぐり、スレンダーな裸身を新たな絶頂が駆け抜けた。

「ぐふふ……いい締まりじゃのう。味もなかなか良い」

肛門に舌を挿入したまま、猿鬼坊が声を上げる。長い舌は奥深くまで侵入し、内壁をゾロリ、ゾロリと舐め回していた。異様な快感が尻の中で弾けるたびに直腸がうねり、汗ばんだ腹筋が緊張と弛緩を繰り返す。

「オマ○コももっと気持ち良くしてあげます……」

絶頂痙攣の止まらぬヴァギナに、フェイランに扮した黒巫女の指が深々と挿入されてゆ

く。一本、二本、三本、四本……指が増えるごとに優の身体は激しくわななき、かすれた絶頂の叫びが喉奥から迸る。

「らめええ！ そんなに挿れたらッ！」

「ダメじゃないでしょ。中がうねってますよ」

灼熱した膣内で繊細な指が蠢き、敏感な粘膜組織をヌルヌルと搔きくすぐる。

親指の腹は包皮を剥き上げた勃起クリトリスを捉えて撫で転がし、容赦のない快感を送り込んだ。

過剰な快感で恥骨が痺れ、膀胱が張り詰めてくる。

絶頂の予感とともに強烈な尿意が押し寄せてきた。

「ダメ……オシッコ、オシッコ出ちゃうッ!!」

身を強張らせ、震える声で限界が近いことを告げる少女剣士。

「出して……オシッコお漏らしするところ見せて……」

四本の指が膣壁越しに尿道をくすぐり、尿道口に押し当てられた親指の腹が強烈にヴァイブレートする。

「漏れるっ！ 漏れちゃうううッ!!」

切羽詰まった声を上げ、優は押し寄せる排泄欲求に必死に耐え続ける。

「ほおら、わたしの指に先輩のオシッコかけて……」

耳元でささやかれた声とともにひととき強い振動が膀胱を激震させ、耐えに耐えていた堤防を決壊させた。

「ひいいいっ！ 出るッ！ 出るううううふううう〜んッ!!」

プシイッ！ プシヤアアアッ!!

尿混じりの潮吹きが、秘裂を颯る指の狭間から飛沫く。

人生最高の放出快感に顔をだらしなく弛め、ポニーテールの退魔少女は熱い恥液の噴出を続けている。

「ほおら、もつと出して……」

下腹をキュツ、キュンッ！ と連続収縮させ、少女剣士は生まれて始めての潮吹きエクスタシーに悶え狂う。

最後の一滴まで搾り出し、長々と続いた排尿絶頂は終わった。
グチュツと音を立てて膣内の指が抜ける。

「う……ああ……ああ……」

何も言い返せぬまま、屈辱と羞恥に身を震わせる優。

ズチュルン！ 音を立てて、猿鬼坊の舌も肛門から抜けた。

「うまい尻穴を堪能させていただいたわ。今度はもつと太くて硬いものを入れてやろう」
墨衣の前をはだけ、小柄な身体に似合わぬ巨根を剥き出しにした妖怪僧は、優の背中に

飛びついた。小柄な妖怪僧がスレンダーな美少女の背中にがっちりとしがみついたその様子は、まるで昆虫の交尾のようである。

「ゆくぞ……」

アナルの蕾に、子供の拳ほどもある亀頭が押し当てられた。

ズ、ズズッ……グププッ……。

散々舐めしゃぶられ吸われて蕩けきっていた肛門に、妖怪僧の牡槍がめり込んでゆく。弛緩していた優の顔が、ギクリと引きつった。

「くわああっ！ やつ、やめろお、壊れるっ！ 裂けるうううああああー!!」

「力を抜かねば裂けるぞ……ぐふふ……」

舌とは比べものにならない圧力が直腸をグリグリとこじ開け、奥へ奥へと侵攻してくる。枯れ枝のような脚を細いウエストに絡めた猿鬼坊は、泣き叫ぶ少女の肛門をゆっくりと貫いてゆく。

「ほおれ、根本まで入ったぞ。たっぷりと突いてやろう」

呼吸もままならぬほどの圧迫感に震えるスレンダー少女の尻孔を容赦なく犯し始めた。ずにゆっ、ずぶっ、ずぶぶぶぶうっ！

少女の手首ほどの太さを持った巨根が、括約筋の末端をまくれ返らせて抽送される。

巨根の全長を活かしたロングストロークは、排泄の解放感を数十倍に濃縮したような快

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>